

### ③ 「森をつくろう！」

～ 身近で理想的な森を創り  
森の役割や多様性に気づこう！ ～

2つの班に分かれて、夢の森林を作ろうというワークショップ。まずは、「森にこんなものがあたらいいな」というものをどんどん付箋に書いていき、広用紙に張っていきます。1つの班が、「川、魚、沼、岩、カブトムシ、木のウロ、ヤマブドウ、あけび、どんぐり、川の音、秘密基地、アケビ、ウサギ、セミの抜けがら、水源、落石、階段、山小屋、トンネル…」などが出てきたのに対し、もう1つの班は、「湖、花、キノコ、小道、つた、山小屋、わき水、クヌギ、丸太橋、池、栗、マイナスイオン、ヤギ、ウサギ…」など。普段山をよく見ているようでも、考えるのは難しそう。リストが出来たら、今度は、関連しているもの同士をヒモでつなげます。

「ふだん考えたことがなかったので、難しかった」という子どもたちも、森には目に見えないものがたくさんあって、それらが互いに深く関係していることに気付いた様子。「みんなの森を大切にしようという心がわかった。これからも、ゴミを捨てないようにするなど気をつけたい」という声もありました。



芦原誠一先生



## ④ 「森の生態博士になろう！」

～ 森の生き物たちの役割や不思議を  
発見しながら、森の博士になろう！～



多賀良太先生

まずは講師の先生が、屋久島やマダガスカルなど4枚の森の写真を見せ、参加者たちに、どの写真が一番自分の身近な森に近いかを考えてもらいました。その後、森にはどんな生き物がいるかを想像し、森の生態系を想像しました。

次に、数名の班に分かれて、生き物の絵が描かれた21個の紙コップを使って、実際に生態系のピラミッド作りに挑

戦。小さな虫から大きな動物まで、生息地や食物連鎖などを参考に、紙コップで生態系組み立てていきます。中には、ペットボトルや本を積み上げたものを森に見立て、より立体的で本格的な森を作る班もみられました。

いよいよ、最後は班ごとに発表です。班のみんなで協力したり、一人が代表して発表したり、プレゼンテーションの形式もそれぞれ工夫しました。また、お互いに質問を交わし、意見交換も行いました。実習と発表を通して、森の生態系について知識が深まったようです。

参加した子どもも、「紙コップだけでなく、ペットボトルや本を使って立体的な森を作りました」「大切な森の生態系を、1人ひとりが守っていくことが大切だと思う」などを感想を寄せていました。



## 自然観察会の様子

～金峰山少年自然の家周辺の国有林（遊々の森）～

2日目の8月5日は、少年自然の家周辺の国有林をフィールドに、自然観察会が行われました。参加者は4班に分かれて九州森林インストラクター会の案内で、森林を散策。インストラクターの説明に耳を傾けながら、葉っぱの匂いを嗅いでみたり、手で感触を確かめてみたりと、五感を使って金峰山に自生する植物の特徴や自然を体感しました。また、器具を用いてスギの幹の直径や高さを測ってみるなど、林業にも触れました。



森の中はひんやりとしていい気持ち



イノシシのお風呂!?





五感を使って自然を感じよう



モンキーブリッジ  
で冒険気分！



インストラクターの話に興味津々



スギの高さを測る器具を体験



### <オイスカとは>

財団法人オイスカ（以下オイスカ）は1969年に「すべての人々がさまざまな違いを乗り越えて共存し、地球上のあらゆる生命の基盤を守り育てようとする世界を目指す」というオイスカ・インターナショナルの基本理念を具体的な活動によって推進する機関として生まれ、主にアジア・太平洋地域で農業開発や環境保全活動を展開しています。特に人材育成に力を入れ、オイスカの研修を修了した各国の青年は、それぞれの国で農村開発に取り組んでいます。また26の国と地域において、子供たち自身が、学校の敷地や隣接地で苗木を植えていく実践活動を通じて「自然を愛する心」「緑を大切にす気持ち」を養いながら、地球の緑化を進めていく「子供の森」計画を展開しています。国内では農林業体験やセミナー開催などを通じての啓発活動や、植林および育林による環境保全活動を展開しています。



### <学校林活動への取り組み>

現在、約3000の小・中・高校が保有している学校林は、昨今、森林がもたらす教育的効果を十分に得られる最適なフィールドとして見直されつつあります。しかし、いざ学校林を活用しようとしても、森林に関する知識や荒れ果てた学校林を整備するための資金がない、誰に何を相談すればよいか分からない、などの問題を抱えている学校が多いのが現状です。

オイスカは2000年より子供たちが里山で自然に親しめる環境づくり、及び学校教育における森林活用を推進するために学校林保全活動を始め、松下電器産業株式会社などの企業や国土緑化推進機構などの助成団体の支援を受け、林野庁や地元自治体、林業関係者、地元の方々と学校を結ぶ調整役として活動を展開してきました。7年目を迎えた現在、山梨、東京、神奈川、岐阜、愛知、兵庫、富山にある合計15校の小・中学校において、荒れてしまった学校林の整備活動や、学校の児童たちによる学校林での下草刈り・苗木の植え付け等の自然体験学習等の実施協力、それらの活動が持続していけるよう各学校に「学校林検討委員会」のようなものを立ち上げていただき教育現場での体験学習のサポートを行ってきました。

近年、子供たちを取り巻く環境の変化により体験を通じて学ぶ機会が減り、自ら課題を見つけて考えてゆく力や、心身のたくましさや失われた子供たちが増えていると言われていています。森林（自然）の中には子供たちが、両親や年長者から、その関り方や活かし方を学べる様々な条件が散在しています。オイスカでは自然における原体験は、健全な社会を形成する大人への成長を助長するものであるという考えに基づいて展開しております。これからも、更なる活動の広がりや、各学校林に関係する方々が協働して活動を継続することによって、地域全体の「ふるさと」として守り、育てていけるよう進めていきます。

《お問い合わせ・連絡先》  
〒168-0063 東京都杉並区和泉3-6-12  
財団法人オイスカ 組織部  
Tel 03-3322-5161/ Fax 03-3324-7111  
E-mail oisca@oisca.org  
URL <http://www.oisca.org/>



<パナソニックグループの社会貢献>

「企業は、社会によって支えられ、社会と共に歩むもの」と考える弊社（2008年10月1日松下電器産業株式会社より社名を変更しました）は、創業当初から健全な社会づくりと豊かな住みよい環境づくりをめざして社会貢献活動を展開してきました。現在は「育成と共生」を共通テーマに、「子ども」「環境」「福祉」を3つの重点分野として進めています。

<学校林支援活動>

弊社が（財）オイスカに協賛し学校林整備事業を支援させていただいたのは2002年からです。弊社として子どもたちの環境教育など総合的学習の一環としてお役にたてればということで、支援を決めさせていただきました。

対象となった一部の学校林では、付近の社員が整備に参加させて頂きました。参加した社員より「生い茂る学校林を生徒や保護者の皆さんと一緒に楽しく整備しました。貴重な学校林を守るお手伝いができてよかった。」という意見が多数寄せられています。

<今後の学校林活動に大切なこと>

学校林は確かにすばらしい活動ではありますが、その活動を継続し輪を広げてゆくためには克服すべき点も多々あるように思います。学校林活動をさらに広めてゆくためには、2つのアプローチが重要であると考えます。

①学校林活動を支える地元団体・メンバーの連携を強固なものにすること。

②地域の方々や学校の活動の実態をいかに多くの方に知っていただくか、という啓発活動の実践。

その学校を卒業された方、お子さんや親戚の子どもがその学校に通っている方、地元の動植物に詳しい方、ものづくりに秀でた方など、周囲にはすばらしい情熱とスキルを持った人たちが多くいらっしゃると思います。こうした方たちと学校関係者がいわば車の両輪として機能することによって、「学校林・遊々の森」活動が地域に定着していくと思います。

また、先生や教育委員会・PTAなど学校関係者や地元の地権者・ボランティア団体・整備事業者など直接関わっていただく方々に加え、国や県・市町村の関係者・NPO・企業の皆様との連携プレーがこの活動の継続・普及に欠かせないのではないのでしょうか。各セクターがそれぞれの立場から知恵を出し連携を図りつつ、積極的にこの活動の環境教育的効果などの情報発信をすることが大切ではないでしょうか。

<今回のサミットについて>

今回のサミットにおいて、成功事例や現場の課題や悩みなどを共有化する場を持ったことは大変有意義でありました。特に子ども達の発表はすばらしく、写真等を使用し、ストーリーもしっかりしており立派な発表でした。この発表を指導されました先生方の熱意と行動に感謝申し上げます。

しかし学校関係者だけで活動を行うには課題が多く、地域・行政・NPO・企業など様々な関係者の協力が必要であると痛感しました。弊社と致しましても、「学校林・遊々の森」整備支援を（財）オイスカと協業して行き、この「学校林・遊々の森」活動を全国に広げていくことの価値を再認識致しました。

<最後に>

弊社では、現在の事業ビジョンとして「ユビキタスネットワーク社会の実現」と「人類と地球環境との共存」を掲げています。未来を担う子どもたちが、「学校林・遊々の森」活動を通じて「人類と地球環境のよりよい関係」を考えていただく機会になればと願いつつ、子どもたちの歓声がひびくフィールドを1つでも多く提供して参りたいと考えております。

# Coca-Cola 日本コカ・コーラ社の環境問題への取り組み

コカ・コーラでは「人と人をうるおすコカ・コーラ」をスローガンに、すべての製品とすべての活動を通じて、人と人の心と体をうるおし、感動と笑顔の瞬間を生み出すことを企業目標としています。社会が元気になるには、ひとりの人間だけでなく、人と人の関係から元気にならなくては始まりません。コカ・コーラは、ただ人をうるおすのではなく、人と人のかかわりをもうるおす会社になりたいと考えています。



そして、コカ・コーラが現在、積極的に取り組んでいるのが環境問題です。地球を少しでもうるおすことのお手伝いをしたいと考えているのです。その活動の一環として、未来を作る子どもたちに森を育み、森とともに歩む心を持ってほしいという思いから、「森に学ぼう」プロジェクトを始めています。環境問題は、今日的な問題であると同時に、未来への課題でもあります。そういう視点においても、このプロジェクトは、環境問題に対する子どもたちへの思いを紡ぐ、重要なプロジェクトと考えています。

## 「森に学ぼう」2007プロジェクト

### ■北海道コカ・コーラボトリング

9月15日、道民の森に造られた「コカ・コーラの森」に、エゾヤマザクラなど210本の木を植樹した。

### ■コカ・コーラ セントラル ジャパン

8月19日、首都圏最大級の水がめである宮ヶ瀬ダムの水源地域を訪ねる体験学習を実施。森を守るための下草刈りも行った。

### ■みちのくコカ・コーラボトリング

10月20日、秋田県大平山自然学習センター「まんたらめ」で、ゲームや料理、そして、もみじの木の植樹活動を行った。

### ■北陸コカ・コーラボトリング

10月13日、南砺市小来栖地域で、木を植える「植樹」と木を育てる「育樹」の体験学習を実施。

### ■仙台コカ・コーラボトリング

5月12日、宮城県蔵王山麓の「出合森」で1haの土地に「ブナ」「ミズキ」「クリ」「コナラ」「アオダモ」の苗木1,000本を植林。

### ■コカ・コーラウエストジャパン

社員・得意先とその家族が、森の生長に欠かせない木の枝打ちや間伐などの森林保全活動を行った。しいたけの栽培のための植菌やほど木組みも体験。

### ■利根コカ・コーラボトリング

8月5日～7日、「子どもエコロジースクール」を開催。子どもたちが都会の生活から離れ、海辺でのキャンプ生活を送った。8月11日には奥日光で「オオハンゴン草」の除去作戦も実施。

### ■四国コカ・コーラボトリング

10月20日、善通寺地域で写生大会を開催。雄大な自然、身近な風景を写生することは、周囲の環境をじっくり観察するきっかけとなった。

### ■三国コカ・コーラボトリング

10月13日、上越グリーンフェスティバルの記念植樹の中で、フェスティバル参加者と一緒になって、一本一本の木を大切に植樹。

### ■南九州コカ・コーラボトリング

11月10日、熊本県の立田山自然公園で、環境カウンセラーの講演を聞いた後、アースアート製作や自然を学ぶ〇×クイズなどを行った。

### ■東京コカ・コーラボトリング

11月11日、東京都指定の野火止環境保全地域で、下草刈りに協力した後、PETボトルを使った「水が循環する」植木鉢作りを体験



国民の森林・国有林  
林野庁

## 森林で遊んで、学び、楽しむ 「遊々の森」

「遊々の森」は学校などが森林管理署等と協定を結ぶことにより、さまざまな体験活動や学習活動を行うフィールドとして国有林を継続的に利用できるようにする制度です。

森林の利用を通じて、子供たちの人格形成や、幅広い知識の習得を行う森林環境教育の場として利用していただけます。



### 「遊々の森」の概要

#### 《実施主体》

学校、都道府県、市町村、教育委員会、学校法人、団体など

#### 《募集方法》

森林管理署長などとの間で、安全確保などの措置や費用負担、有効期間（5年以内、更新可）などを含めた協定を結びます。

#### 《活動の内容》

##### ●森林での遊び

ネイチャーゲーム、丸太切り（間伐、除伐材利用）、木工クラフト（間伐、除伐材利用）、隠れ家作り（ツリーハウスなど）、つる細工、炭焼き体験、沢での水遊びなど

##### ●森林学習

植生調査、森林調査（樹高、直径）、土壌調査、野生動植物観察、昆虫採集、きのこ栽培（ほだ木置場）、林内栽培など

##### ●林業体験

植林（針葉樹・広葉樹）、下草刈り、枝打ち、除伐、つる切り、保育間伐など

以上「遊々の森」では、森林内でさまざまな活動ができます。

また、森林管理署が、活動プログラムの提供、指導者の紹介、必要な情報提供などについてお手伝いします。

### 「遊々の森」のお申し込み・お問い合わせ

- |   |  |
|---|--|
| ①北海道森林管理局<br>指導普及課…TEL011(622)5231<br><a href="http://www.hokkaido.kokuyurin.go.jp/">http://www.hokkaido.kokuyurin.go.jp/</a> | ⑤近畿中国森林管理局<br>指導普及課…TEL06(6881)3419<br><a href="http://www.kinki.kokuyurin.go.jp/">http://www.kinki.kokuyurin.go.jp/</a>   |
| ②東北森林管理局<br>指導普及課…TEL018(836)2192<br><a href="http://www.tohoku.kokuyurin.go.jp/">http://www.tohoku.kokuyurin.go.jp/</a>      | ⑥四国森林管理局<br>指導普及課…TEL088(821)2000<br><a href="http://www.shikoku.kokuyurin.go.jp/">http://www.shikoku.kokuyurin.go.jp/</a> |
| ③関東森林管理局<br>指導普及課…TEL027(210)1158<br><a href="http://www.kanto.kokuyurin.go.jp/">http://www.kanto.kokuyurin.go.jp/</a>        | ⑦九州森林管理局<br>指導普及課…TEL096(328)3593<br><a href="http://www.kyusyu.kokuyurin.go.jp/">http://www.kyusyu.kokuyurin.go.jp/</a>   |
| ④中部森林管理局<br>指導普及課…TEL026(236)2531<br><a href="http://www.chubu.kokuyurin.go.jp/">http://www.chubu.kokuyurin.go.jp/</a>        | ⑧林野庁<br>国有林野総合利用推進室…TEL03(3503)2038<br><a href="http://www.kokuyurin.maff.go.jp/">http://www.kokuyurin.maff.go.jp/</a>     |







古紙配合の再生紙を使用しています。  
ソイインクを使用しています。

